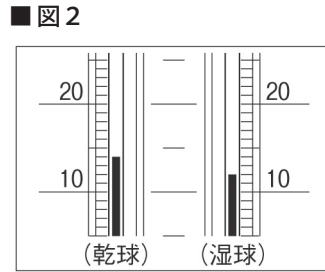
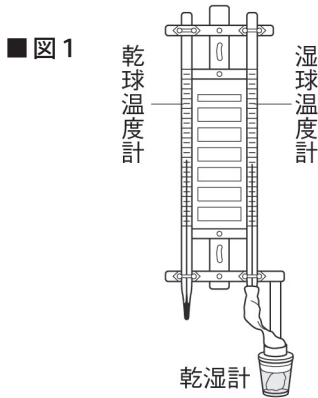


気象観測と気圧(5)

名前

1 図1の乾湿計の示す温度は図2のようであった。以下の問いに答えなさい。



■ 図3 湿度表

乾球の示度 [°C]	乾球と湿球の示度の差 [°C]						
	0.0	0.5	1.0	1.5	2.0	2.5	3.0
15	100	94	89	84	78	73	68
14	100	94	89	83	78	72	67
13	100	94	88	83	77	71	66
12	100	94	88	82	76	70	65
11	100	94	87	81	75	69	63
10	100	93	87	80	74	68	62
9	100	93	86	80	73	67	60

乾球の示す温度 (14°C) の行と乾球と湿球の示度の差 (2.0°C) の列が交わる値を読み取る。

- 気温を表しているのは乾球温度計と湿球温度計のどちらか。
- 図2で、乾球と湿球の示度の差は何°Cか。
- 図3の湿度表を用いて、図2のときの湿度を求めなさい。

(1)	乾球温度計	(2)	2.0°C	(3)	78%
-----	-------	-----	-------	-----	-----

2 右の図は、雲量計測器を使って、ある日の午前10時と午後2時の雲を観測した様子である。以下の問いに答えなさい。

■ 雲量計測器で観測した雲の様子



午前10時



午後2時

- 午前10時と午後2時の天気は何か。またそれぞれの天気記号もかきなさい。ただし降水はなかったものとする。
- 曇りのときの雲量として正しいものをア～ウから選んで記号で答えなさい。

ア) 0~1 イ) 7~10 ウ) 9~10

(1)	午前10時	天気	晴れ	天気記号	☀
	午後2時	天気	快晴	天気記号	☺
(2)	ウ				

3 大気圧について説明した次の文章の()に当てはまる言葉を書くか、○でかこみなさい。

- 空気には質量が(あり ・ なく)、重力が作用するため、標高が(高く ・ 低く)なるほど上に積み重なった空気が重くなり、大気圧が(大きく (低く))なる。
- 海面付近の大気圧の平均は約 (① 1013) hPaである。
①hPaは (1 ・ 101300) 気圧である。

